

北九州市立母子・父子福祉センター 指定管理者検討会会議録

- 1 開催日時 平成30年10月26日（金） 14：00～16：45
- 2 場 所 市役所本庁舎15階 15C会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 大谷構成員、角見構成員、齋藤構成員、
田中構成員、西村構成員
（事務局） 子ども家庭局子育て支援課長、家庭支援係長、
子育て支援課担当職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
 - 応募団体より提案概要に関してプレゼンテーション後、質疑応答

【応募団体：一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会】

＜質疑応答＞

（構成員）

今回、指定管理料は年間4,083万8,000円、5年間の定額と計画しているが、平成30年までの指定管理料を教えてください。

（応募団体）

年間の指定管理料としては、4,129万7,000円となっている。

（構成員）

今後5年間は、これまでより低減を予定しているということか。

（応募団体）

そのとおり。5年間の実績に近い数字に基づいて積算した。

（構成員）

この数字なら無理なくやれるだろうという計画ということか。

（応募団体）

少しでも金額を抑えるような形で積算した。

（構成員）

経費の面でお尋ねする。「プログラム策定費」という項目があるが、これは3名のプログラム策定員の人件費か。

（応募団体）

大部分が人件費。

（構成員）

単純に3で割ると440万円くらいの金額になるが、ほとんどが人件費ということでよいか。

（応募団体）

そのとおり。約1,330万円のうち約1,280万円が人件費として計上している。

（構成員）

一人あたり400万円以上は支払っているということか。

(応募団体)

実際には、社会保険料など事業主分も入っているので、それも含めたところでの金額ということになる。

(構成員)

プログラム策定員は常勤か。常に3人体制か。

(応募団体)

常勤である。3人のうち1名は、平成28年8月から、小倉北区のAIMにある「ウーマンワークカフェ北九州」に常駐し、ひとり親家庭の方のための就職相談に対応している。したがって、現在は、母子・父子福祉センターがある戸畑区と、ウーマンワークカフェ北九州がある小倉北区の2ヶ所で相談を受けられるようになっている。

(構成員)

プログラム策定員は具体的にどのような業務をしているのか。

(応募団体)

ひとり親家庭等の親が就職をしたい場合の相談業務である。ひとり親家庭になったばかりの方のなかには、今まで仕事もしたことがない方もいるし、1人になったことによって心がかなり不安定になっている方もいる。そのような方が相談に来られた時は、その方が置かれている状況、例えば子どもの状況とか、どういう状態で生活をしているのかとか、今後どのようにしていきたいのかということをもっとお尋ねするが、なかなか心を割って話していただくまでに時間がかかる。

通常はハローワーク等で就職相談をして決めるという方法が、皆さんよくご存じの方法だと思うが、「こういう企業がありますかどうですか。」というビジネスライクな感じではなかなか就職できない方が母子・父子福祉センターに来る。

そこで、相談に来られたひとり親家庭の方にとって、どのような企業、職業が一番適しているのかを一緒に考えていくために、1~2ヶ月にわたって面談を複数回行う。長い方だと、1年以上かかることもある。また、就職が決まった後も、きちんと仕事に勤めているかを確認するなど、アフターフォローも含めて行っている。

(構成員)

私自身、ひとり親の方とはよく交流を持っている。団体の関係者の皆さまは一生懸命、子どもと親の幸せや自立のためにいろいろ計画されてご苦労だと思う。

(構成員)

資料を拝見させていただくと、利用者がさらに増えてほしいとの目標が記載されているが、平成28年度から児童扶養手当の現況届にチラシを同封するようになったということで、それに対するレスポンス、反響はどの程度あったのか。実感は得られたか。

(応募団体)

取組みを開始した当初はあまり反応はなかったと思うが、今年度に関しては、チラシを見て、「もっと詳しく知りたい」と電話をいただくケースが少し増えてきたと実感している。

(構成員)

今後もそういう啓蒙活動をされていきたいと考えているか。

(応募団体)

市の関係施設には、毎年リーフレット等を送付しているが、必要な方の所に届いているのかとの思いがあった。

そこで、児童扶養手当を受給している方全員に送付する現況届の書類に、母子・父子福祉

センターのチラシを同封することで、ひとり親家庭の皆さんに施設を知っていただくという意味で必要な取組みだと思っており、来年度以降も市の担当部局と相談して決めたいと考えている。

(構成員)

「ころころ保育園」という施設を初めて知ったが、夜 10 時まで預かっていただけるということで、すごくいいサービスだなと思う。まだ 45 名しか登録がないと記載されていたので、もう少し PR がうまくいくといいなと思った。

(応募団体)

リニューアルした「ころころ保育園」については、お母さんたちから口コミで広げていただいたり、市の担当者からも PR してもらっている。リピーターが増えたり、とりあえず登録はしたものの 1 回も来たことがない方が来てくれたりなど、少しずつだが利用が増えてきている状況だ。

(構成員)

小学校、10 歳まで預かってくれるところはなかなかないので、すごくいいと思う。

(応募団体)

どちらかという、土日や祝日の利用が多い。両親は仕事に行かなければならないが、保育所や学校が休みという時、子どもだけ置いておくわけにはいかないという場合に預けている方が多いようだ。

(構成員)

先ほど、PR をもう少ししていただく取組みが必要なのではないとの話がありましたが、北九州市内のひとり親の世帯数というのは、どのように推移しているのか。

(事務局)

北九州市において、ひとり親家庭等実態調査を 5 年ごとに行っており、直近の調査は平成 28 年度に実施した。母子家庭の数は、約 1 万 4,700 世帯となっており、過去 5 回までは微増傾向にあったが、平成 28 年度の調査で初めて減少に転じた。これは、福岡県や福岡市、全国的にも同じ傾向であり、どこの自治体でも若干減少という状態になっているようだ。

(構成員)

いずれにしても、心の拠り所というか、非常に重要な施設である位置付けは変わらないと思う。そのあたりをしっかりと PR されて、チラシなども作っているので、効果的な PR 方法を少し工夫していただければいいなと思う。

(構成員)

今の質問に関連して、母子・父子福祉センターがどのようなサービスを提供できるのか、広報、または利用者やユーザーのニーズの洗い出し、このあたりのところをいかに開拓していくのかということが分からないと、少し危ういかなという感じがある。

ニーズの洗い出しを行う際、どうしても親のほうが中心になるが、ひとり親家庭、“家庭”という言葉が付いている。子ども側のニーズというのは具体的にどのように洗い出すか、方策などはあるか。

(応募団体)

1 つは、親子ふれあい事業のなかで、親子が参加できる事業をセンターでやっている。その際にアンケートをとり、子どもが記入しているケースもあるので、そういうものを参考に、どのようなものを実施すれば参加いただけるかというところを、今後、少し工夫をしないといけないと考えている。

(構成員)

期待してます。それでは時間となったので、これで質疑を終了させていただく。お疲れさまでした。

(退室)

《審議》

(構成員)

今回、母子父子福祉センターの応募団体は、一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会のみのお応募となっている。構成員の皆様は、プレゼンテーション・質疑等の結果を踏まえて指定管理者候補検討シートを整理していただいて事務局に提出してください。

そのあと、構成員の皆様には、感想・意見を簡潔に説明していただきたいと思うので、その準備も併せてお願いしたい。

(各構成員 検討シートに記載中)

(構成員)

それでは、集計の間、各構成員より、今の応募団体の企画提案内容について、感想・意見を簡潔に説明いただきたいと思う。

(構成員)

PRの部分がかったが、少し気になるのは、収入に関しては、施設の性質上、ゼロにならざるを得ないという部分もあるかと思うが、せっかくのプレゼンテーションなので、その辺の提案が少しあってもよかったと感じた。

あと、PRの面で言えば、保育園の話が出てきたが、小学校とどこまで連携しているのか、その辺も時間があれば、もう少しお話を聞きたかった。

(構成員)

提案の具体性というか、利用者数を増加するための具体的な方法論、手段や手法など、もう少し具体性を持った答えを聞きたかった。

(構成員)

私もPRの件で、必要としている以外の人たちにもPRするように、広く皆さんに伝えてもらいたいと思った。

埋もれたひとり親というのはあるが、ひとり親家庭の調査によると、ひとり親家庭は減少しているということで大変いいことだし、皆さんと力を合わせて、子どもたちや親の生きる力をつけるお手伝いをしたいと思っている。

(構成員)

PRがもう少しできれば、もっと利用者が増えるのかなと思う。メンタルのケアまでしながら就職支援をしているということは、ハローワークとは異なる支援をしているということで、必要な施設ということも理解できた。

(構成員)

皆さんがおっしゃるようなPR、自分たちがどういうふうなサービスを提供できるかということに関して、やはり広報活動が足りないのかなと感じた。潜在的にそれ相応の数がいるのに、そのニーズがきちんと洗い出せてないのではないのかと。そういった意味で、乖離が生じていて、数がある割には十分にサービスが浸透してないのではないかとの印象がある。

やや厳しい言い方をすると、実績はあるは現状維持でずっと続けている、これまでの取組

みを踏襲しているという感じが強いので、やはり、現在のひとり親家庭がどういう状況なのかということを中心にきちんと実態把握をする中で、その中で、自分たちがどのように取り組むべきか、そういった点で今後、努力が必要ではないかと思っている。

以上で構成員からの説明を終わりたいと思います。

次に、今、お手元に配っていただきました、評点の集計結果を発表します。500点満点で335点。100点満点に換算すると、67点ということです。

この結果を受けまして、構成員の皆様から、この時点で採点の修正などございましたら、ご意見を賜りたいと思いますけれども、この結果でよろしいでしょうか。

では以上で、集計結果に基づきまして、一般財団法人北九州市母子寡婦福祉会が指定管理者として相応しいと判断し、検討会における議論を十分に考慮し最終決定を行うよう市に求めることといたします。

それでは、以上で、この団体に関して、審査は終わりにいたします。